

電気ストーブ火災を防ごう

《電気ストーブ火災の実態》

令和2年の東京消防庁管内（治外法権火災及び東京消防庁管轄外からの延焼火災を除く。）の火災件数は3,693件です。このうち電気製品等から出火した電気火災は1,163件(31.5%)で、そのうち最も多いのは、電気ストーブ火災（カーボンヒーター、ハロゲンヒーター及び温風機を含む。）の69件(5.9%)です(図1)。電気ストーブ火災のうち亡くなった方は8人、けがをされた方は30人と、人命にかかわる被害が大きい特徴があります(図2、図3)。

これからの季節、電気ストーブを使用する機会が増えると思います。電気ストーブの見た目は、炎(直火)がなく火災になりにくいと思われがちですが、ストーブによる火災のうち、電気ストーブ火災の件数が圧倒的に多いという実態があります。使用に際しては、燃えやすいものは近くに置かないなど注意が必要です。

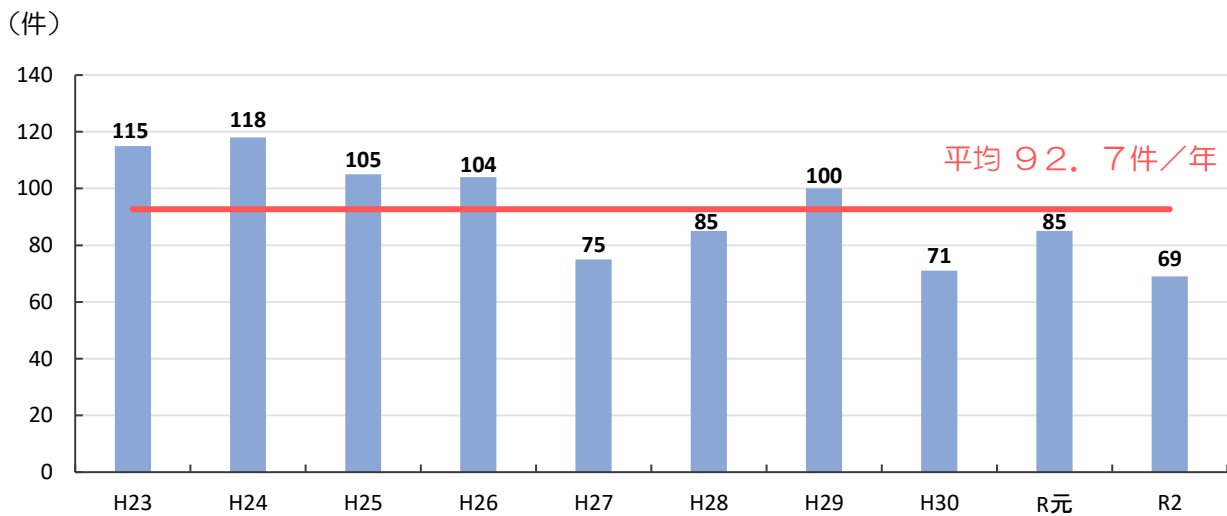


図1 電気ストーブの火災件数の推移

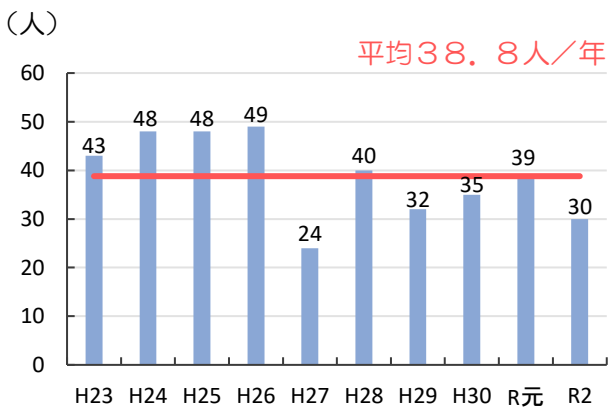


図2 電気ストーブ火災による負傷者の推移

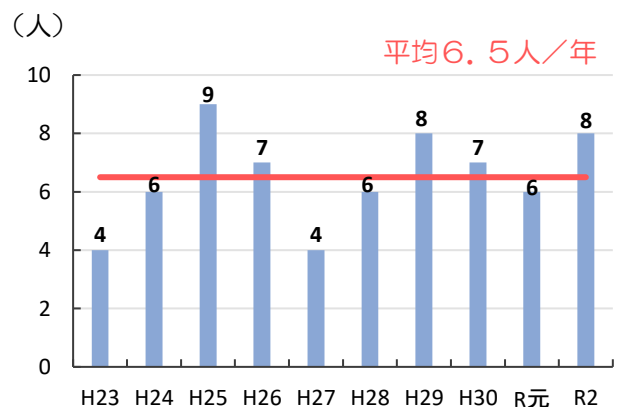


図3 電気ストーブ火災による死者の推移

《電気ストーブ火災の特徴》

電気ストーブ火災の発生原因として、電気ストーブをつけたまま就寝し布団等が接触して火災が発生する事例や、電気ストーブ上にあった衣類等が落下し火災が発生する事例が多いという特徴があります（写真1、写真2）。

電気ストーブは、火を使わないため安全なイメージがありますが、ヒーター部分は高温になっているため、近くに燃えるものがあると火災になる恐れがあり注意が必要です（写真3）。

また、電気ストーブ火災は、ぼや火災であっても、一酸化炭素中毒や着衣が燃えたために亡くなる方が多く発生しています。



写真1 電気ストーブに布団が接触し出火した様子（実験写真）



写真2 電気ストーブの上に洗濯物が落下し出火した様子（実験写真）

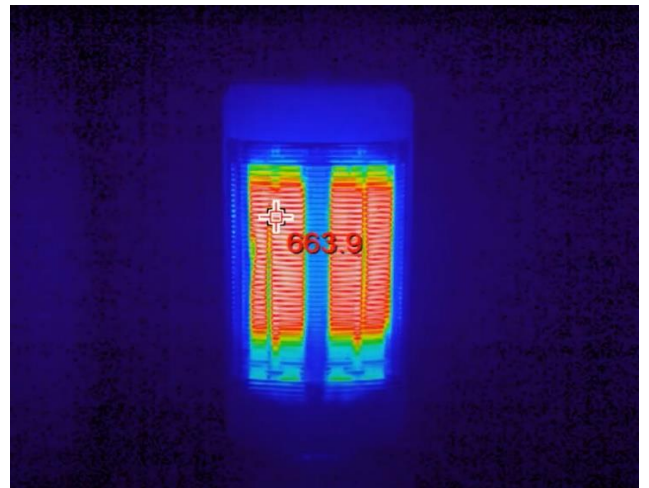


写真3 電気ストーブのヒーター部分の温度測定（実験写真は663.9度）

電気ストーブの火災



動画はこちらから
ご覧いただけます。



(YouTube 東京消防庁公式チャンネル)

《令和2年に発生した電気ストーブの火災事例》

- 事例1 使用中の電気ストーブの近くに掛けていた衣類が落ちて接触し出火した。
住宅が全焼し、居住者2名のうち、高齢者が死亡、成人が負傷した。
- 事例2 居室内で、こたつ布団が使用中の電気ストーブに接触し出火した。
長屋兼共同住宅のぼや火災で、居住者の高齢者が死亡した。
- 事例3 居住者が就寝中、何らかの原因で使用中の電気ストーブに布団が接触し出火した。
共同住宅の部分焼火災で、居住者の成人が死亡した。
- 事例4 布団の近くで使用していた電気ストーブの放射熱でマットレスと布団等が焼損した。
- 事例5 居室内で、椅子の近くで使用していた電気ストーブの放射熱で椅子に掛けていた衣類や鞆等が焼損した。
- 事例6 居室内で、電気ストーブの正面で暖を取っていたところ、着ていた半纏が接触し出火した。

《電気ストーブ火災を防ぐポイント》

- ◎ 周囲に燃えやすいものを置かない
- ◎ 外出時や就寝時は必ず電源を切る
- ◎ ストーブの上で洗濯物を干さない
- ◎ 誤ってスイッチが入らないように
使わないときは電源プラグをコンセントから抜く
- ◎ 電源プラグやコードが傷んでいたら使用しない

